

3月30日（月）

後 悔

聖書朗読 マタイ 20：1～16

あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は強く信じているのです。 ピリピ 1：6

マレーとマーサは長年夫婦仲の悪さに悩んでいましたが、クリスチャンセミナー「夫婦のためのコミュニケーションのコツ」に参加したことで幸福への道筋が見えたようでした。——「ああ、20年前に学んでさえいれば！」

地方から都会に移り住んだカールとジェーンは、都会の人のがさつさや忙しなさにすっかり圧倒されてしまいました。友人もほとんどなく、周囲の人々ともなじもうとしない日々を14年も送りました。しかし、キリスト者との交友をきっかけに、自らも信仰を得たところ、多くのおもいやり溢れる兄弟姉妹に恵まれました。——「ああ、10年前にこうした恵みを知っていれば！」

テッドとドリーンは既に子育ても終わり、お孫さんにまで恵まれていましたが、教会で催された育児法の講習会に参加しました。——「ああ、これを25年前に知っていれば！」

主に在ること。それ自体が大きな恵みです。朝から日の落ちるまでぶどう園で働くことが許された私たちは、時間の過ぎ行くのを楽なものとし、失業の苦痛から守られ、また社会に貢献できている者として自尊心を持って生きることが可能とされました。

もし、天の国に召されてなお悔いることがあるとすれば、それは、地上で信仰をもって主に在る時間が短かったこと、与えられたみ恵みを十分に味わわずに過ごしてしまったこと、この二つだけでしょう。

讃美歌 第二編 47

祈り 天なるお父様。与えられました奉仕を全うできるよう、どうぞお助けください。あなたがお約束くださった究極の報奨が何であるか、よく存じています。加えて、今、私の更に欲しますのは、御国に至る道中も、あなたより与えられる励ましの一つ一つを噛みしめ、実を結ばせることです。

イエス様の尊き御名を通しまして。アーメン。

テッド・トーマス 1984年

今日の力

2015年3月30日～4月5日

翻訳 箕作玲子

編集 岩田欣三

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

3月31日(火)

主は私に宿を与えられた

聖書朗読 マタイ 25:31~40

あなたのパンを水の上に投げよ。ずっと後の日になって、あなたはそれを見いだそう。
伝道者の書 11:1

裁きの日の光景を思い描くと、敬畏と驚嘆が溢れます。裁きの日、私たちは一人ひとりより分けられますが、その際に羊とされるか山羊とされるかは、いかに空腹な者に食べる物を与え、渇いた者に水を飲ませ、旅人に宿を貸し、裸の者に着る物を与え、病気の者を見舞い、牢にいる者を訪ねたかによって決められます。注目すべきは、助けを要したものがそれを受くるに値するかどうかの議論は全くなされていないことです。助けを受ける者が罪深い者か純潔な者か、御国に国籍を持つ者が持たない者か、正しい者であるか罪人であるかなど、一切触れられません。

「最も小さい者」とはどういう者を指すのか。主は私たちにこの言葉を理解することを求められます。だからこそ、私たちが裁きの日に羊と山羊、どちらとしてより分けられるのかも、「最も小さい者」が誰であるかを見抜き、彼らに手を差し伸べたかどうかにかかっているのでしょう。

「最も小さい者」には、孤児、ホームレス、社会で見過ごされがちな者、貧困にある子どもは含まれないでしょうか。また、未熟な者、障害を負った者、精神疾患に苦しむ者、身体疾患を負う者も含まれないでしょうか。

私たちは「最も小さい者」を自分勝手に解釈し、「助けに値する者」の基準を設けてしまいがちですが、今一度立ち返って全ての「見知らぬ旅人」に宿を貸しましょう。

兄弟と 呼べぬほど ひきき者なく
訪ねてさえ 行けぬほど たかき者なし
空腹を ないがしろにできるほど 貧しき者いなければ
哀れみの 要らぬほど 豊かな者もなし

———— S・R・ハーロー

讃美歌 452

祈り ああ神様。どうぞ苦しみに共感できる心をお与えください。他者のつまずきと共にあって、自らを律し、強められますように。
イエス様のみ名を通して。アーメン。

イネズ・ボーカム 1960年

4月1日(水)

霊の糧 肉の糧

聖書朗読 マルコ 8:14~26

わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠のいのちを持っています。わたしは終わりの日にその人をよみがえらせます。
ヨハネ 6:54

家族や友人、皆そろって動物園にでかけたあの日。食べることなどすっかり忘れ、遊び疲れて、初めて空腹に気づく次第です。朝は興奮のあまりお弁当の準備などしなかったことを思い出し、お昼支度をしている者の姿も見たおぼえのないことに焦りを覚えます。そんな時にお母さんがお父さんに美味しい食事がぎゅっと詰められているに違いないピクニック用のバスケットを車から持ってくるよう頼むのを見て、ほっと胸をなでおろす。こんな経験があなたにもありませんか。

イエス様は神の国を第一に求めれば、本当に必要とする物は全て天のお父様が備えてくださると約束されました。山上の説教の場に居合わせた聴衆の多くがイエス様のお約束の真偽を疑いました。しかしその後イエス様は二度も、何千もの人々にパンと魚を裂いて満腹させられました。ご自身が幾重にも行ってこられたみ業は、またいつでも為せることを弟子たちにあらためて気づかせ、記憶に刻みこられるのです。

イエス様は世の初めよりずっと、私たちの肉と霊に必要な糧をそっと備え続けてくださっています。全ての人がこの恩恵にあずかって参りましたが、真に永遠の祝福にあずかることができるのは感謝を持って、与え主たる神をよく知り、愛そうと努める者だけなのです。

讃美歌 187

祈り 永遠なるお父様。日ごとの糧をお与えくださるのと同時にお父様のお与えくださる全てのみ恵みへの感謝をどうぞ豊かに強めてください。

イエス様のみ名を通して。アーメン。

ロナルド・K・ホワイト 1978年

4月2日(木)

受け継がれた確かな信仰

聖書朗読 ルカ 1:1~4

私たちは・・・うまく考え出した作り話に従ったわけではありません。この私たちは、
キリストの威光の目撃者なのです。 II ペテロ 1:16

ルカは確かな教育を受けた医師でした。ルカは、読んだ者の心に、神の子主イエス様への信仰が湧きあがるような記録を残したいと願い、イエス様が地上で過ごされた日々とその間行われたみ業について書き記しました。

自身の記録した全てが綿密な調査によるものであると読者に周知することもまた、ルカには重要なことでした。実際に様々な場面に居合わせた目撃者やみ言葉の伝え手に詳細に話を聞いた上で、精査に耐え得る確かな記録を残しました。

キリスト教の教義の礎は神話や根拠のない作り話の寄せ集めにあるのではなく、御子、主イエス・キリストを通した神のみ姿が明かされていく真実のストーリーにあるのです。

キリストに信仰を寄せる者として私たちは聖書を通してイエス様について真実を伝えられていることに自信を持ち、地上での命も永遠の命も、主を通して知らされた真理に賭けることができます。何故なら、私たちの信仰の教義の基盤は迷信や作り話ではなく、歴史的に検証された真実だからです。

ルカが福音書を書いたのは、書き記された出来事の目撃者がまだ多く存命していた時代でした。ルカは知る立場にある人間から文句をつけられたり、真否を疑われたりすることもあるとよく分かっていました。だからこそルカは、確かな真実のみを書き記しました。ルカの記述は地理的にも歴史的にも確かでした。

いにしへの聖徒の その篤き信仰

その聖き信仰 われらも従わん

——F・W・フェーバー

讃美歌 第二編 21

祈り 尊き主よ。どうぞ信仰を強めてくださいますようお導きください。

イエス様のみ名を通して。アーメン。

J・P・サンダーズ 1955年

4月3日(金)

罪人の友

聖書朗読 ルカ 7:36~50

何よりもまず、互いに熱心に愛し合いなさい。愛は多くの罪をおおうからです。

I ペテロ 4:8

本日の聖書箇所で描かれる食事風景は、二千年前の慣習を窺い知ることができる興味深いものです。しかし大切なのは、ここに描かれている二つの愛の真理です。神が迷える罪人に差し伸べる愛の真理と救われた罪人が神に差し出す愛の真理。どちらの愛の真理もていねいに描かれています。「よけいに愛する者はよけいに赦す」のも真理であり、「よけいに赦された者はよけいに愛する」のもまた真理です。

神は被造物である私たちをその偉大な愛によってよけいに赦してくださっています。神を愛することは信仰の第一の原則です。しかし、神を愛せよ、との教えは、実は命令ではなく、愛によって変えられた者の心からの神への応答であるとも思えます。

ある少女の話を思い出します。この少女は生まれて初めて家族の元を離れ、他人に囲まれて暮らし、ホームシックになっていました。これは母への手紙の言葉です。「どんなもとても親切です。でも、私のことをじっと心に留めてくれる人はいません」。

本日の聖書箇所では、イエス様をじっと心に留めていたのは、信心深いシモンではなく、罪深い女性でした。イエス様の友情と赦しは、罪を誇り高く思うかのように振る舞う者ではなく、深く悔やむ者に与えられました。

イエス様はご自身に全てをささげる者を変えてくださいます。イエス様を愛するなら、身を捧げて主に尽くすことでしょう。そして、尽くす中で従順となり、従順ゆえにイエス様の愛に満ちた赦しに授けられるのです。

讃美歌 246

祈り ああ主よ。独善に満ちた高慢をどうぞいさめ、あなたへの愛ある献身の心を強めてください。

イエス様の尊き御名を通して。アーメン。

エバレット・ファークソン 1959年

4月4日(土)

世界友和のための祈り

聖書朗読 ルカ 10:25~37

私もまた、あなたがたのために祈るのをやめて主に罪を犯すことなど、とてもできない。私はあなたがたに、よい正しい道を教えよう。 Iサムエル 12:23

天にいますお父様。この世界——哀れな私たちの世界。つまりいは転び、転んではつまづく私たち。死者を葬るために掘り返されてしまった地上。憎しみに凝り固まった世。——こんな世界にキリストのみ名を告白する私たちがあまねくあなたの愛を行き渡らせることができないように。

この世界に生きる全ての人の苦しみや痛みをより良く理解する心、それらを癒そうと願う思いやりと憐憫の気持ちを強めてください。世界中の隣人を常に覚えることができますように、心に関心の種を植え、慈愛の泉をわき上がらせてください。償い切れない罪を赦された者同士、共に生きて行けますよう、お力をください。

穏やかに生き、互いに手を携えて歩んで行けるようお導きください。世の不幸を増やしてしまうことのないように、不要な涙を一滴もこぼさせないように、思いやりを持たせてください。見返りを求めずに、純粋な心を持って正義のために立ち上がる力をお与えください。私たちの権利が認められるように求める時も、他者の権利への配慮を忘れないようにいましめてください。自らの赦しを熱心に求めるように、他者を赦すことにも熱心であらせてください。

神様。慈しみの伝道者、いたわりの使者として、どうぞ私たちを用いてください。イエス様のために、私たちを用いてください。アーメン。

讃美歌 236

祈り 愛します主よ。祈りに耳を傾け、お答えくださいますことに感謝します。
イエス様のみ名を通して。アーメン。

ロクシー・トーマス 1958年

4月5日(日)

チャンスを勝ち取ろう

聖書朗読 ルカ 11:5~13

・・・その人は、友達だからということでは起きて何か与えるようなことはなくても、しつように頼めば、起きて来て必要なものは何でも与えるであろう。

ルカ 11:8 (新共同訳)

本日の聖書箇所のとえ話に登場する、突然の来客を必死にもてなそうとした人物に注目してみたいと思います。この家の主人は、友人をもてなすことができずに、きまりが悪く、恥ずかしい思いをしたのではないのでしょうか。友だちの家に駆けて行き、『めんどろをかけないでくれ。もう戸締りもしてしまったし、子どもたちも私も寝ている。起きて、何かをやることはできない。』とつれなく言い放たれ、更に立場を失ったことでしょう(ルカ 11:7)。

普通であれば「できるだけことはした」と諦めてとぼとぼと帰路につくでしょう。しかし、この主人は相手に嫌とは言わせない覚悟をしていました。友だちが寢床から起き、必要な食糧を渡してくれるまで、ずっと戸を叩き続けました。

ルカはこのように熱心に求め続けることを「しつように」と形容しました。ここでは、「しつようさ」がパンを得るチャンスにつながりました。3斤のパンを求めて真夜中に友の許へ走り、門戸を閉ざして寝ている彼に粘り強く、「しつように」頼みごとをし続けた主人は二つの事柄に動かされていました。具体的な必要意識と緊迫感です。

私たちはチャンスを逸してしまうことがあります。そうすると、つい落ち込んで失望感に浸ったり、投げやりになったりしてしまいがちです。しかし、そんな時は目標を新たにして、緊迫感を持ち、しっかりと前を向くことです。チャンスはしつようさで勝ち取るのです。

讃美歌 328

祈り 天にまします私たちの父よ。私たちは一回の挑戦と失敗だけで諦めてしまいがちです。他人に迷惑をかける恐れをおかしても、正しさを求めてしつように扉を叩き続けてよう励ましてください。

御子、主イエス・キリストの尊きみ名を通してお祈りいたします。
アーメン。

カルビン・パワーズ 1970年